

2019年度 事業報告

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

1 会員数の状況 (2020年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (1口5千円)	98	(107)
団体正会員 (1口1万円)	23	(23)
特別正会員 (5万円以上)	5	(5)
一般賛助会員 (1口2千円)	104	(98)
団体賛助会員 (1口1万円)	3	(2)
特別賛助会員 (3万円以上)	1	(1)
企業賛助会員 (1口10万円)	0	(0)

2 会議の開催の状況

(1) 総会・理事会

2019年

5月11日 理事会 (東京都豊島区、としま南池袋ミーティングルーム)

6月22日 通常総会 (東京都新宿区、TKP 飯田橋ビジネスセンター)

10月14日 理事会 (東京都台東区、いきいきプラザ)

(2) 運営会議 13回開催 (2019年4月10日、4月26日、5月31日、6月26日、7月29日、8月27日、9月18日、10月23日、11月15日、12月18日、2020年1月31日、2月27日、3月25日)

(3) 共同代表会議 Skype、Zoomによるオンライン会議で14回開催

3 事業の実施の状況

(1) 調査研究事業

2019年12月11日 東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ (EAAFP) 国内連絡会に参加

2020年

1月24日 環境省モニタリング1000シギ・チドリ調査検討会に参加

1月28日 日・露・米ハマシギワークショップに参加 (宮城県栗原市)

1月29日 日・露渡り鳥条约会議に参加 (宮城県栗原市)

(2) 保全・再生事業

- 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域ヒアリングを5回開催 (岩手県骨寺荘園遺跡、徳島県小松島市・鳴門市、愛媛県西予市、大阪周辺、熊本県八代市・鹿児島県出水市)

- 「田んぼ10年だより」3回発行 (10月：第16号、3月：第17・18号合併号)

- 農水省、環境省、国交省との水田決議円卓会議準備会を8回開催

- 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト参加者へのヒアリングを2回実施 (宮

城県、千葉県)

2019年

- 8月29日 「石木ダム建設事業の中止を求める意見書」を長崎県知事、佐世保市長に提出
- 9月12、13日 葛西海浜公園の登録1周年記念行事「湿地の恵み展」に参加
- 9月19～21日 フィリピン・イフガオ州の棚田で田んぼの生きもの調査を実施
- 11月2、3日 第10回田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域交流会（福井県敦賀市、プラザ萬象）
- 11月6～8日 IUCNアジア地域FORUM（パキスタン）に参加
- 11月19日 「上関原発計画予定地におけるボーリング工事中止を求める要請」を中国電力、山口県知事に提出
- 11年19、20日 ラムサール条約湿地関係市町村連絡会議（大崎市）に参加
- 11月25～29日 生物多様性条約SBSTTA（カナダ・モントリオール）に参加
- 12月5日 新たな「食料・農業・農村基本計画」への意見書を日本自然保護協会ほか5団体で農林水産大臣に提出
- 12月5日～7日 エコプロ2019（東京ビッグサイト）に出展
- 12月7日 第5回田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト全国集会（東京都江東区、TFTビル）

2020年

- 1月12、13日 にじゅうまる COP4（名古屋市）に参加し、田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトと湿地のグリーンウェイブの分科会を開催
- 1月16日 「泡瀬干潟の鳥獣保護区（特別保護区）の設置を求める要望書」を沖縄県知事に提出
- 2月1日 世界湿地の日シンポジウム（東京都渋谷区、国連大学）で呉地理事が講演
- 2月1日 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産推薦地の視察に関する要望書」を日本自然保護協会などと連名でIUCNに提出
- 2月13日 「石木ダム強制収用を許さない！東京行動」への共催と参加
- 2月29日 田んぼの生物多様性パンフレットを出版
- 3月24日 「辺野古・大浦湾一帯を「日本初」のホープスポット（Hope Spot）に認定することを求める署名」を泡瀬干潟を守る連絡会、日本自然保護協会と連名で沖縄県知事に提出

(3) 普及・啓発事業

2019年4月～7月 湿地のグリーンウェイブ2019キャンペーン実施

(4) 国際協力事業

- － WWNスカイプ会議に参加（12回）
- － WWN-Aスカイプ会議（アジア地域代表会議）に参加（10回）
- － 翻訳プロジェクト会議を19回開催

2019年

- 11月30日～12月1日 第14回日韓NGOフォーラム（韓国スンチョン市）を開催

(5) ネットワーク推進事業

－ 「ニュースレター」4回発行（4月、7月、10月、1月）

(6) その他の事業

・ 設立10周年事業

- 6月22日 ラムネットJ設立10周年シンポジウム〈第1弾〉ラムサール・ネットワーク日本10年 成果と課題（東京都新宿区、TKP飯田橋ビジネスセンター）
- 8月22～23日 ニック・デイビッドソン氏の九州視察に同行し案内
- 8月25日 ラムネットJ設立10周年シンポジウム〈第2弾〉水の自然な流れを守るために～ラムサール条約の実施とNGOの役割～（東京都千代田区、YMCAアジア青少年センター）

4 助成金・受託事業の状況

(1) 地球環境基金 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

2019年4月～2020年3月 5,476,000円

(2) Global Greengrants Fund ラムネットJ設立10周年シンポジウム

2019年6月～2020年5月 645,437円

(3) パタゴニア 湿地のグリーンウェイブ

2020年2月～2021年1月 624,674円

(4) 環境省 ラムサール条約決議翻訳業務

2019年9月～2020年3月 972,000円

2019年度事業報告（プロジェクト別）

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ部会

2019年度は3年間の経団連自然保護基金助成が2019年3月で終了し、助成金を申請しなかったため、シンポジウムなど一般社会に呼びかける活動はできなかった。連絡を取りつつ、各地で活動を行ってきた。バードライフ・インターナショナル東京作成のヘラシギに関するパンフレットに助言を行い、6月に発行された。また、水田部会の田んぼの生物多様性に関するパンフレットを3月に発行した。ここでは淡水を利用するシギ・チドリ類の観察情報提供を呼びかけている。この情報は、球磨川河口のラムサール条約湿地登録へむけた活動に当たり、農業者への情報提供の役割を果たしている。

2020年1月29日に宮城県栗原市で行われた日露渡り鳥条約会議に併せて、日本のシギ・チドリ類の優占種であるハマシギの保全に関して日露米ワークショップが行われ、ラムネットJから柏木理事が参加した。この種はEAAFPおよび北極圏渡り鳥イニシアティブ AMBIの優先保護対象種であり、シギ・チドリ類の減少が激しい中、優占種ハマシギに注目して、保全策を立てることの重要性を確認した。

・東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ（EAAFP）

2019年度は2018年12月に行われた第10回パートナー会議の戦略の実施が始まった。2019年12月のEAAFP国内連絡会においては、関連のNGOが各分野での活動を確認した。

・モニタリングサイト 1000 (MS1000)

2020年1月24日にシギ・チドリ類調査検討会が東京都で行われた。

(2) 保全・再生事業

●沖縄・開発問題部会

2019年度から、沖縄だけでなく全国の開発問題を対象にし、事業として、

- ・「水の自然な流れを守る」をキーワードに、各地の問題湿地と繋がって諸活動を行う。
- ・砂浜の重要性が広く認知されるようCEPA活動を進める。
- ・泡瀬干潟、大浦川河口、表浜のCOP14でのラムサール登録をめざした諸活動
- ・世界自然遺産を持つ島の在り方を問題提起する。(南西諸島4島の登録に関して)

などの活動を計画した。実際には、以下のような活動を実施した。(部会独自の活動ではなく関連した事柄も含む)。

1) 意見書等の提出 (連名を含む)

- ・石木ダム建設事業の中止を求める意見書
- ・上関原発計画予定地におけるボーリング工事の中止を求める要請
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産推薦地の視察に関する要望書
- ・泡瀬干潟の鳥獣保護区 (特別保護区) の設置を求める要望書
- ・辺野古・大浦湾一帯を「日本初」のホープスポット (Hope Spot) に認定することを求める署名

2) イベント等の実施

- ・ラムネットJ設立10周年シンポジウム〈第2弾〉
- ・第14回日韓NGO湿地フォーラム (韓国スンチョン市)
- ・「石木ダム強制収用を許さない!東京行動」への参加

●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト (田んぼ10年プロジェクト)

・国内での活動

参加団体/個人数が、270程となった。田んぼ10年プロジェクトの地域集会1回 (福井県敦賀市、参加者約40名以上)、地域ヒアリング5回 (岩手県骨寺荘園遺跡、徳島県小松島市・鳴門市、愛媛県西予市、大阪周辺、熊本県八代市・鹿児島県出水市)、全国集会1回 (東京) を開催した。にじゅうまるプロジェクト会議に定期参加し、にじゅうまるCOP4 (名古屋市) では田んぼ10年プロジェクトの分科会を開催した。

水田での生物多様性向上の普及をはかるポスターとパンフレットとして、敦賀市地域交流会、ラムサール条約湿地関係市町村連絡会議などで展示や配布を行った。

「田んぼ10年だより」を3回発行、メーリングリストでの情報共有、専用ホームページの更新も行った。水田部会を9回開催、農水省、環境省、国交省との水田決議円卓会議準備会を、8回 (のべ78回) 開催、水田の生物多様性に関わる多様な議論と提案を行った。

新行動計画策定に向け、田んぼ10年プロジェクト参加者へのヒアリングを2回 (宮城県・千葉県)、作業部会を (2回) 開催し、田んぼ10年プロジェクトの内部評価を実施し、課題を抽出し、新行動計画書案作成に着手した。

水田での生物多様性保全を強化するように、新たな「食料・農業・農村基本計画」への意見書を日

本自然保護協会ほか5団体で農林水産大臣に、12月5日付けで提出した。

・国際的な活動

9月にフィリピン・イフガオ州の棚田での田んぼの生きもの調査を実施し、棚田の生きものや大学・研究者との連携について情報収集を行った。日韓田んぼの生きもの調査は、8月開催予定だったが日韓関係の悪化により2020年3月に延期され、新型コロナウイルスの影響により、さらに延期となった。ウガンダでの田んぼの生きもの調査は10月に予定していたが調査予定者の負傷により中止とした。

IUCNアジア地域FORUM（パキスタン・11月）および生物多様性条約SBSTTA（カナダ・モントリオール・11月）に参加した。ポスターは英文版も作成し、国際会議の場で展示した。

●登録推進・条約実施

葛西海浜公園の登録1周年記念行事として東京都が9月に開催した「湿地の恵み展」に参加した。2月1日の世界湿地の日シンポジウムで呉地理事が講演した。

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ

2019年4月～7月をキャンペーン期間として呼びかけ、全国22の都道府県より63団体（主催団体）64タイトルのイベントが参加、全国のイベントリスト（3月10日までに申請分）をリーフレットに掲載し各地に配布した。またホームページではイベント情報だけでなく各団体や湿地の情報も合わせて紹介し、イベント終了後にいただいた報告も掲載した。

このうち、6月15日までに開催されるイベントについては、国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）のグリーンウェイブ本体にも登録し、IUCN日本委員会が主催する「にじゅうまるプロジェクト」への登録も行った。

2019年度はキャンペーン以外に、第14回日韓NGO湿地フォーラム（11月30日～12月1日）の中で湿地のグリーンウェイブキャンペーンについて紹介、にじゅうまるCOP4（1月12～13日）にて分科会を開催した。

(4) 国際協力事業

●WWN（世界湿地ネットワーク）関係

2019年度開始頃は代表ルイズ・ダフ氏（豪）が休暇のため、クリス・ロストロン氏とコナー・ウォルシュ氏（英・WWT）がマネジメント委員会を主催し、毎月、スカイプで議論をした。また、2019年から、柏木理事を補助するために永井代表理事がマネジメント委員会に参加している。年度初めに2019－2021の戦略計画を策定した。2020年6月に予定されていたIUCNの世界保全会議（2021年1月に延期）に提出する動議（「自然な水の流れ」）について議論し、採択については現在最終の電子投票待ちの状態。また、COP13で協働したYEW（Youth Engaged in Wetlands）とも、マネジメント委員会にYEWのメンバーに加入してもらい連携を始めた。

アジア地域代表会議についても毎月開催し、各地の状況について意見交換している。

●日韓NGO湿地フォーラム

11月30日～12月1日に韓国・スンチョン市において、日韓NGO湿地フォーラムを韓国NGOと協働して行った。湿地保全と周辺ステークホルダー（農家、漁民）とがウィンウィンとなる事例、自然な水の流れについての事例報告を日韓それぞれから行った。

報告書集は、ホームページのラムネットニュースレター 38号該当記事の末尾にリンクがある。

●翻訳プロジェクト

環境省から委託を受け、2018年COP13（ドバイ）における以下の主要な決議7本を邦訳した。

決議12 気候変動の調整に寄与する国際的に重要な湿地（ラムサール条約湿地）としての泥炭地特定のガイダンスに関する決議

決議13 気候変動の緩和・適応等及び、生物多様性の向上と災害リスク軽減のための劣化した泥炭地の再生に関する決議

決議14 沿岸のブルーカーボン生態系の保全、再生及び持続可能な管理に関する決議

決議16 持続可能な都市化、気候変動と湿地に関する決議

決議19 湿地における持続可能な農業に関する決議

決議20 潮間帯及び生態学的に関連する生息環境の保全とワイズユースの促進に関する決議

決議24 沿岸に位置するウミガメ生息地の保護促進とラムサール条約湿地の指定に関する決議

(5) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

2019年度はニュースレターを4回発行した（35号～38号）。主な記事としては、「藤前干潟保全から20年」「ラムネットJ設立10周年シンポジウム〈第1弾〉報告」「ラムネットJ設立10周年シンポジウム〈第2弾〉報告」「ホープスポットに認定された辺野古で続く環境破壊」など。毎回、1000部程度印刷し、会員や関連団体に郵送したほか、各種イベントでの配布も行った。

●ホームページ

ホームページのソフトウェアの入れ替えを計画したが、作業時間が確保できず、実施できなかった。

(6) その他の事業

1) 設立10周年事業

●シンポジウム

・ラムサール・ネットワーク日本10年 成果と課題（6月22日）

第1部は前共同代表を中心に、ラムネットJの歩みを振り返った。第2部は現共同代表を中心に、今後の湿地保全とラムネットJの活動を考えた。各地のキーパーソンを迎えて、話題提供をしていただいた。

・水の自然な流れを守るために～ラムサール条約の実施とNGOの役割～（8月25日）

元ラムサール条約事務局次長のニック・デビッドソン氏の特別講演をはじめ環境省、内外NGOから

の報告、パネルディスカッションを行った。国際条約がなかなか守られず湿地破壊が続く現状に対するNGOの行動について、様々な指摘があった。それらの指摘はその後の活動に一つずつ繋げていつている。

●冊子・アーカイブ関係

2019年度は諸般の事情により、作業が中断したため、冊子・アーカイブともに完成させることができなかった。

2) 組織構築の課題への取り組み

●評価部会

第1回理事会の決定に基づき評価部会を設置し、パブリックリソース財団に委託して3回の組織診断・基盤強化ワークショップを実施し、取りまとめのための部会を1回開催した。